



NPO PTPL “ともいき” 便り No.28

■小満（しょうまん） （2013年5月21日発行）

「小満」の節気に入りました。陽気がよくなり、草木などの生物が次第に生長して生い茂るころ。山野が緑に満ち溢れ、麦刈りの時季です。町を歩いていると、ほんとうに緑がきれいです。街路樹のイチョウの葉もすっかり大きくなり、まだ黄緑色の葉もあれば、だいぶ大人びてしっかりとした緑色になっている葉もあります。インターネットテレビ「ともいき」の「二十四節気日本/古典・近代短歌」をクリックしてみてください。二十四節気ごとに日本の景色を背景に代表的な短歌が一句ずつ紹介されています。「小満」は斎藤茂吉の句です。<http://www.tomoiki.tv/24/koten/index.html>

「桑の香の 青くただよふ 朝明に 耐へがたければ 母呼びにけり」

「小満」の七十二候初候は「蚕起食桑」（蚕が起きて桑を食む）です。母が戦争中疎開していた群馬の磯部では、お世話になっていた家が養蚕農家だったそうです。蚕が桑を食べる音が気になってなかなか眠れなかったといっていました。私も息子たちが小学生のときに、蚕をわけてくれる方がいたので飼ったことがあります。桑を調達するのが難しいかと思いましたが、意外に桑の木が近所にあるとわかりました。蚕の食欲はものすごく、だんだん大きくなり、「新幹線みたいだ!」と息子たちは蚕の大ファンになりました。ですから、繭にはいったままの蚕をお湯で煮て糸をとると言ったとき、「かわいそうだからやめてー」と泣かれてしまい断念しました。蛾になり庭に放しましたが、カイコガは飛べないのできつと小鳥のごはんになってしまったことでしょう。まさか蚕にあんなに感情移入するとは……。

近所の桑の木に、もうすぐ桑の実が熟します。母は磯部で桑の実をおやつに食べたそうです。近所の桑の実が公園内にあるので採るのは禁止されているので食べませんが、小鳥たちのおいしいおやつになっているようです。

さて、八百屋さんには空豆が売られています。さやが空にむかって上向きにつくので「空豆」といわれています。豆が蚕の繭に似ているから「蚕豆(そらまめ)」とも書きます。空豆のさやは、とても豪華で、一度でいいから鞆のベッドで眠ってみたいです。

この時季、枇杷も旬を迎えます。かわいらしい色と形が大好きです。葉の形が琵琶の形に似ているから、「びわ」という名前がつきました。小さいわりには種が大きくて物足りなさを感じるのは私だけでしょうか。今から45年ほど前、小学生だった弟が、給食ででた枇杷の種を持って帰ってきて庭に植えました。そうしたら、どんどん大きくなって、今では3メートルをこえるくらいまでに生長しました。たった1度、小さな実を数個つけただけで残念なのですが、ときどき枇杷の葉をお風呂にに入れて枇杷の葉湯を楽しんでいます。

二十四節気や七十二候という先人たちの暮らしの目盛りは、毎日忙しくしている私たちに季節感を知らせてくれます。小満の季節。私はまずは、空豆と枇杷で季節感をおおいに味わいたいと思います。

すとうあさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

ともいき・ともうみ雑感彼是

長い文章になってしまいましたが、お読みいただけたら幸甚です。

●「日本遺産」の創設。そして『世界遺産』の提案へ

1) 動き：「日本遺産」創設へ

日本政府は、「日本遺産」創設を検討し始めました。

長い歴史と独特な風土をもつ日本には、『遺産』に値する貴重な文物（モノとコト）が、数多く存在しています。これらに新しい価値観の光を当てて選択し、「日本遺産」として国内外にアピールしていこうという考えだと思えます。

2) 富士山が『世界文化遺産』になった意義

富士山が2013年度の「世界文化遺産」に選ばれることは、日本のもつ独特の山の価値を、世界が評価し尊重することを意味します。実は富士山は、実質的には古くからの『日本遺産』だったのです。

これを機に、富士山以外にも「世界遺産」に提案できる『日本遺産』をさら

に多く選び、日本人の誇りと自覚を高めることが重要になってきたと思います。このことは日本を生活文化の国として世界に訴求する強い動機になります。

3) じつは 350 もある富士山

日本全国には、富士山の名をもつ山が約 350 山もあり、これらは古くから「ふるさと富士山」として地域市民に敬愛され続けてきました。これは、日本人がどれほど富士山を精神的な支え、希望の象徴としてきたかを物語っています。

ひとつの山が、これほど多くの名前と呼ばれる例が世界にあるでしょうか。人類歴史のなかで稀有の例といえるでしょう。

4) 富士山と「ふるさと富士山」を新しい『世界遺産』に

このように考えるとき、ひとり富士山だけでなく、350 の「ふるさと富士山」（おらが富士）を全てまとめて「日本遺産」、そして「新世界文化遺産」として登録されるのが妥当ではないでしょうか。

これからの日本の性格は、「観光立国」「環境立国」「生活文化立国」となるでしょう。この方向こそ日本が諸国から尊敬され、幸せな世界の実現に貢献できる独自の、そして賢明な道ではないかと考えます。

「日本遺産」の創設は、この目的を推進するうえで、きわめて適切、効果的な発案であると思います。

5) しかし、ひとつ問題があります

それは、私たち日本人がどれほどよく母国日本を知っているか、という問題です。風土、歴史、言語をはじめ多岐の分野にわたる多様な日本の特色・実相をどの程度知り、その価値を理解しアイデンティファイしているかです。

「日本遺産」にしても「世界遺産」にしても、国民市民の認識と熱い支持がなくては意味がなく、値うちもありません。世界に誇る根拠がありません。遺産とはプライドの価値であろうからです。

そこで私たちはまず、「もっと日本を知ろう」という市民運動こそが急務であると考えました。すこし遠回りであっても、市民の多数が遺産となる対象を理解し、愛着をもち、誇りに思う知的・精神的環境を整備する必要を痛感するのです。これは、「350 富士山」の私たちの長年の研究、そして、これを「日本遺産」にとの発案を契機に気付いた、いわば大きな発見です。

6) 「もっと知りたい、日本。」プロジェクト

「もっと知りたい、日本。」「不思議の国、これが日本。これも日本。」という主旨のプロジェクトを考えました。

多くの日本人が日本について、さらに、新たに興味と関心をもち、よく知ることを通して日本への愛を深めていただきたい。そして、グローバル時代に堂々と胸を張り、誇りをもって日本の価値を伝える自信をもちたいと思います。

別紙にプロジェクトの概略をメモしました。ご賢察をお願いいたします。

●プロジェクト「もっと知りたい、日本。」の概要

「日本のことをもっと知る」。そのために、日本の特色を多面的にリストアップし、映像と文案で案内・紹介していく情報化活動です。

日本に生まれ育つ私たちは、日本のことを知って初めて「日本人」になれるのではないのでしょうか。歴史にはじまり、風土、自然、季節、農林漁業、言語（方言も含む）、習慣、教育、文化、芸術、食品、産業、産物、工業、技術など各分野の「日本的」なものの総合が、「日本」という国を創り特色となっています。

ところが多くの日本人が、思いのほか日本の実質・実体を知らずにいます。残念なだけでなく、国際化時代に「自国」を知らねば活動はできません。

そこで、日本の特長である数々のコトやモノを、まず日本市民にわかりやすく魅力的に情報化しようこのプロジェクトを考えました。この活動は、同時に諸外国の方がたにも伝えたい日本の実相・実体であり、国益に寄与します。

観光立国、環境立国、生活文化立国をめざす日本にとって、日本理解の基本となるポジティブな情報活動であると信じます。(外国人向けに英語バージョンをつくる)

情報化のジャンル例：

◎風土：◎自然：◎地理環境：◎歴史：◎生活様式：◎食品：◎習慣：◎工芸：
◎教育：◎宗教・信仰：◎生活百科：◎海外交流：◎地域：◎衣料：◎医療など、日本を形づくる生活文化一般。

個別のテーマ例：

地形と意識：神話：歴史：弓形列島：二十四節気：二至四分：富士山と 350
のふるさと富士山：雪月花：漢字・カタカナ・ひらがな：もったいない：いた
だきます・ごちそうさま：行っていらっしやい：ただいま：お帰りのさい：お
裾分け：お福分け：松竹梅：盆栽：旬の食品：和服：和紙：漆器：畳：床の間：
掛軸：温泉、銭湯：寿司、すき焼き、らーめん：たこ焼き：大福餅：すもう：
新幹線：地震：津波：活断層：助け合い：遷宮：祭り：七五三：節句：梅雨：
お米：ふぐ：しゃぶしゃぶ：ジャパナイズ：など、日本ならではのモノとコト。

学校で学ばなかった「生きた日本の実際」を取上げていきます。

勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

●どのように感じられましたか？

私はひとりでも多くの人々に参加していただき、大きな流れに出来たらと考え
ます。

ご意見をください。お待ちしております。

■ 事務局だより

●5月17日、18日、19日の三日間、東京に夏の訪れを告げる 東京浅草:三社祭が行われました。

この祭りは 神田祭り、山王祭と並んで東京三大祭のひとつです。本年は東京スカイツリー効果もあり、一段と盛り上がったようです。

今の時季は一年でも一番、気持ちの良い時季です。部屋に閉じこもらず、近所の公園などに出かけ、さわやかな風、やわらかな日差しを感じてください。

●一日一回、「ともいき暦」を。

今、書店を覗くと「二十四節気七十二候」に関するいろいろなジャンルの書籍が見受けられ、また、売上も好調なようです。NPO PTPL が設立当初から提唱してきた“人と人、人と自然のコミュニケーション”の基本をなす「二十四節気七十二候」に注目が集まっていることは喜ばしいことです。

「二十四節気七十二候」をベースに日常生活の中で季節の移ろいを感じ、様々が行事をつくり出してきた先人の知恵を、ぜひ、「ともいき暦」を通して感じてください。

ともいき暦：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2013/>

●「ともいき便り」、facebook「ともいきぐらし」をお知り合いの方にご案内ください。

Facebook：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒108-0073 東京都港区三田 2-21-11 パークハイム三田 103 号

電話：03-6436-0335 FAX：03-6436-0337 Email：info@plantatree.gr.jp